

多文化を  
ささえる  
人びと

# 外国人支援の総合商社

## 在日外国人情報センター

東京高田馬場。日本でもっとも多民族化の進んだ地域である。ここに在日外国人を支援するNPO在日外国人情報センターがある。前身を含めると日本で最古の外国人支援組織のひとつである。その活動から在日外国人のとりまく状況の縮図がよみとれる

### 外国人の入居支援

在日外国人の登録者数が二〇〇万人の大半にのったのは二〇〇五年、つい五年前のことだ。それが今や二二〇万人をこえ、その数値はじつに日本の住民の一・七四パーセント、総数では、全国一七番目の長野県の人口に匹敵する。にもかかわらず、外国人にとって日本での住居探しは

大きな困難のひとつとなっている。賃貸住宅の家主が「外国人はちょっと」と貸し渋ることが多いのである。理由の多くは民族や人種差別というより、文化摩擦やトラブルの際のコミュニケーションの難しさ、そして支払い能力への懸念が大半をしめるという。

東京にはこのような問題に対し、外国人の支払いに家主がいだく不安を家賃保証という形でバックアップし、さらにコ

ミュニケーションなどのトラブルを軽減しようとする団体がある。「外国人生活サポート機構」といい、外国人の生活支援などをおこなってきたNPO「在日外国人情報セン

ユーモラスな看板だが、不動産屋も外国人を無視できなくなったことがうかがえる。ここで家賃保証が役に立つ。(センターとは無関係)



ター」(以降、センター)が母体となって昨年立ち上げた外国人のための家賃保証団体である。借主から一定の委託料をうけとっておき、家賃滞納の際にそれで補填するというシステムである。センターの代表者・小池昌さんの話では、一九九六年、センターが都内の外国人を対象に実施したアンケートでは、外国人が入居するまで、平均一五件の不動産屋をあたるのが普通だったという。近年都心から人口が減少するなか、不動産賃貸市場は次第に外国人に依存し始めているとはいえず、生活や経済事情の不安定なアジア出身者にとっては画期的な出来事といえる。

### 防災情報ネットワーク

在日外国人情報センターの前身である在日外国人情報誌連合会EMPCが活動をはじめたのは一四年も前一九九六年である。関西での大震災



ESニック・メディアの棚にはアジア系言語で発行される新聞がならぶ

後、関東でも外国人への防災や緊急情報の伝達をスムーズにおこなうため、当時伸び続けていたESニック・メディアが数社あつまり緩やかな連合体を作ったのがきっかけであった。以降ESニック・メディアを通して外国人への防災意識を喚起する他、被災外国人救援バザーやシンポジウムにより、日本社会にも活動の重要性を訴えてきた。その間、

### 多民族的高田馬場

小池代表の他、事務局長の斉藤さんと数人の外国人スタッフできりもりするセンターの活動は、外国人への住宅支援や情報提供にとどまらずじつに多彩である。先にあげた入居にかんするアンケートもそうだが、幅広い支援外国人層やネットワークを背景として、外国人の抱える問題や需要調査を単独あるいは委託事業として実施し、行政やときには事業に反映させてきた。一方で、外国人に対して、入管問題や就職など個人的な相談のつたり、企業や個人の通訳・翻訳を請け負うこともある。また週の何日かは、事務所の半分をしめる会議室を日本語教室や外国人の集会所として開放している。



高田馬場駅の近くにはアジア系のESニックレストランが軒をつらねる

がて日本語を習得し、日本の生活にもなれ、なかには事業をおこすひともいる。しかし後続者の流れは絶えず、外国人支援の必要性は尽きることがない。センターは日本語講師や事務スタッフなどボランティアと活動資金の恒常的な不足にあるが、賃貸保証事業はひよっとするとセンターの経済基盤への貢献が期待できるかもしれない。

### 原点は「カイビガン」

ところで、ここまでの話から、NPOとはいえず、センターが組織として、ボランティアと営利事業のあいだを渡り歩いているのが気になりな方もいるだろう。しかし小池さんは飄々としてそんなことは余り気にし



日本語教室はボランティアの教師がささえてきた

東京都の行政ニュースをながすチャンネルを作る過程で都との連携を深め、二〇〇四年、EMPCの代表者であった小池さんが都の地域国際化検討委員会委員に委嘱されたのを契機に現在の「在日外国人情報センター」に名称変更したのである。現在センターは、防災情報をESニック・メディアに迅速に提供するため都とともに二〇〇五年に設立した「東京都在住外国人向けメディア連絡会」の事務局をつとめているが、加盟メディアは一四言語、約四四タイトルをカバーしているという。その一部は、センター事務室の一角におかれ、常時閲覧可能である。近年は古くからのインドネシア語、フィリピン語にくわえ、タイ語、ヒンディー語、ビルマ語、シンハリ語の新聞も棚に並びはじめ、ますます多言語化する在日ESニック・メディアの現状がうかがえる。

小池さん。  
気負わずオープンな態度は性格の反映だろう

